

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270202738		
法人名	株式会社 三輪商事		
事業所名	グループホーム薫風舎		
所在地	〒036-8071 青森県弘前市大久保西田105-42		
自己評価作成日	平成28年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【アロマケア】香りを体内に取り込み、人間が本来持っている自然治癒能力を引き出し、精神的・肉体的にバランスを取り戻す療法で、認知症の予防だけでなく症状の緩和にも効果があります。週1回専門のエステティシャンに来院して頂き、個々に合わせた施術が受けられます。施術後はカルテに記録して頂き、ご家族様へ報告しています。</p> <p>【生活・右脳・運動リハビリ】家事全般。全身運動、外出、手指運動、ゲーム、音楽療法、筆記、音読などがあり、全入居者様を対象に個々の能力に応じて実施しています。また、出来る事は行って頂く自立支援に向けたケアを心掛けております。平成21年より、毎月ピアノ慰問を行っております。</p> <p>【年間を通し毎日の外出・個々の希望する場所へ】自宅、散歩、買物、外食、ドライブ、季節行事などへ出掛けます。生き甲斐や楽しみに繋がっております。</p> <p>【介護と医療の連携】母体が薬局であることを活かし、管理薬剤師による薬剤指導(月2回)・協力医の往診・医療カンファレンス(月2回)を実施しています。日頃より協力医・主治医との連携が密であり、急変に備えています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より掲げている薫風舎の誓いを理念とし、各職員のネームプレートの裏や、廊下に掲示する事で、いつでも理念を確認することが出来、意識をもって実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないものの、地域の夏祭りや、回覧板の配達、運営推進会議を通して定期的な交流を図っている。また交流の中で、入居者様のことを分かっていた事で、入居者様と地域がつながることの出来るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得のための実習生や学区内の中学校の職場体験等、積極的に受け入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みを報告したり、防災訓練に見学・参加して頂き、感想や意見を聞きサービスの向上に活かしている。今年度からは御家族様の参加もあり、様々な角度からの視点を取り入れるよう尽力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加にて助言や指導を頂いている。またホームで発行している新聞を提出し、取り組みについての報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成しており、いつでも閲覧できるようにしている。玄関の施錠はk、基本的に夜間のみとし、日中は扉に鈴をつけ玄関の開閉を察知し、対応している。無断外出に対しては、運営推進会議を通し、地域や交番に協力を依頼している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成しており、いつでも閲覧できるようにしている。また、ヒヤリハット・事故報告書などを活用し、怪我や紫斑等発生原因究明・再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人教育や、日々のOJTを活用し学ぶ機会を設けている。また、外部の研修など通して学び、研修参加者が他職員に伝達できるよう、復命報告書を回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にご本人・ご家族様にホームの説明をする為、面談や見学する機会を設け、契約時は再度口頭と文章で説明し、内容を理解・納得したうえで契約を行っている。改定時は文章での同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階職員室カウンターに意見箱を設置し、苦情を投稿できるようにしている。また、ご家族様面会時状態報告をし、意見の聞き取りを行っている。遠方のご家族様へは適宜電話での状態報告を行っている。苦情処理に関しては、重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者ミーティング、スタッフミーティングを行い、意見を出し合う機会を設けている。また、日頃より職員とコミュニケーションを取るようにし、意見を言いやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断やインフルエンザワクチンの摂取を行い、健康管理の体制を整えている。就業規則を職員室に置き、いつでも閲覧できる様になっている他、労働条件なども個々に話し合い対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のO-JTや職場内外でのOFF-JTを活用し職員の教育に努めている。外部研修に参加した際は復命報告をし全員が把握・実践できるようにしている。新職者には一定期間新人研修を設け、個々の能力に合わせ対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の職員と交流する機会を設け、グループホームとは違う仕組みの介護も見学、学習する事で質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の訪問調査や、ホーム見学時に利用に関しての話等を聞き取りし、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様同様に、利用前の訪問調査やホーム見学などを通して、要望や不安なこと等聞き取りし、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様からの聞き取り内容と、当ホームでどのような支援をできるのかを考え、ご本人様、ご家族様に説明・理解をして頂く。必要に応じ、当社の居宅介護支援事業所のケアマネージャーへの紹介を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある通り、一つの屋根の下の家族という立場から、利用者様主体の生活を共に送り、個々の生活歴を把握・理解し、興味や関心を引き出し、気づくことが出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時もしくは電話連絡にて利用者様の状態を報告したり、入居前のアセスメントや今後のケアについて相談・意見交換をし、情報を共有する事で、利用者様を共に支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様について常にアセスメントし、馴染みの人や場所の把握に努めている。また、病院や、美容院など入居後も継続利用する事で関係が途切れないよう支援している。公衆電話を設置し、いつでも知人や家族と連絡をとれる環境作りを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円滑なコミュニケーションが図れるよう必要に応じ、会話の橋渡しや共同での余暇活動参加の促しをし、相互に思い合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先への情報提供は実施しているが、退居後の関係性は薄くなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、入居時の聞き取り、本人の生活歴等アセスメントし希望を把握出来るよう努めている。困難な場合は、ご本人の様子やご家族様と話し合いながら本人本位となるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他機関からの情報提供や、ご家族様からの聞き取り、センター方式、馴染みの場所へ実際に一緒に行ってみる等、実行し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録に毎日の活動内容や心身の状態変化などを記録し現状の状態把握に努めている。また、全職員が把握できるよういつでも閲覧できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて、ご本人様、ご家族様の意向を伺い計画に活かしている。また、担当の職員が毎月モニタリングを行い、現状にあった介護計画となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録をもとに、実践したケアや心身の状態など、情報の共有は出来ている。また変化に合わせ情報交換をしながら、日々の実践や介護計画への反映や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所の利用と併せ、アロマ緩和ケア、調剤薬局と連携を図り、出来るだけ、ご本人様やご家族様のニーズにこたえることが出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して入居者様の事や認知症についての理解をして頂けるよう働きかけたり、近隣散歩や地域の祭りに参加し交流を深める事で、利用者様が地域で安全に豊かに暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望する病院へ受診している。また、入居時に協力医の役割も説明し、緊急時に対応出来るように情報提供し体制を整えている。受診結果を報告したり、家族が医師の説明を受けることが出来るよう仲介している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と協働し、状態変化があった際は迅速に看護師へ報告する事で、状態に合わせた処置や受診等の対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護・看護サマリーを作成し、病院関係者へ情報提供を行っている。また、退院時には事前にご本人様の状態を確認し、家族を含め話し合いを行っている。退院後に関しても常勤の看護師と協働する事で、医師との連携もスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合に関わる指針」を作成し、契約時に説明を行っている。医師より終末期と告げられた時点で再度ご本人・ご家族様の意向、ホームで出来る事を話し合いながら今後の方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「容態急変マニュアル」「無断外出・行方不明者捜索手順」を設置している。実際に急変や事故発生した際に、再度対応の検証を行い、次につなげている。応急手当の訓練は定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震の防災訓練は定期的に行っているが、水害対策訓練は行っていない。地域連絡網は確立されているが、連絡網以外の地域住民にも協力頂ける様、運営推進会議など通して依頼している。非常食等も定期的に確認し確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとりひとりに合わせ、声掛けや対応を工夫し、声掛け等も自身の尊厳を損ねることの無いよう対応している。また、スタッフミーティングの時間を活用し、定期的に職員に自身の声掛けについて振り返るよう促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自身の希望を話しやすいような関係作りや環境設置に努めている。また、自己決定できるよう、質問する際には選択肢の提示など工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のタイムスケジュールは大まかなもののみ作成し、入浴や余暇活動、外出など、その時の気分に合わせて臨機応変に対応出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容院の方が来舎し、散髪できる環境を設けている。また、日々の生活の中でその方の好まれている服装など把握し、本人に合わせ支援できる様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は専門のスタッフが作成。昼食と夕食は副食を配食サービス利用している。米研ぎや、汁物に入れる食材切り、盛り付け等は共に実施。食事は職員も同じものを一緒に会話を持ちながら食べる事で楽しく食事できる雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては栄養士などの指導は無いものの配食サービスよりの栄養表を参考にバランスを考えている。食事量は職員が都度観察しており、個々が摂取する量など把握している。形状については個々の嚥下機能に合わせ、あらかじめミキサーまで、看護師と相談し調節している。水分は都度確認し1日の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自立されている方も、磨き残しの無いよう、確認と声掛けを行っており、嗽の出来ない方や、嚥下状態の悪化がある方は口腔清拭で対応している。義歯は毎日就寝時に洗浄剤に浸け置きし清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄サインを把握し、トイレ誘導する事で失敗を防ぐことの出来る様努めている。オムツやパッドを使用している方も同様に、なるべくトイレで排泄出来る様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消・防止のため生活の中に運動を取り入れたり、水分を強化したりと行っている。また、おやつにカスピ海ヨーグルトを提供し、便秘予防に取り組んでいる。排便が困難な方に関しては主治医に相談し、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の提案をし、入りたい時に入れるよう話し合っ日時などを決定している。入浴拒否の強い方は声掛けを工夫する等気分が変わるよう工夫している。入浴時間や温度などは個々に合わせ調整し、楽しんで入浴出来る様留意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態にあわせ、日中の短期臥床や運動など取り入れている。夜間は、リネンや照明の調整で対応している。また、睡眠がなかなか出来ない方は、医師やご家族様と相談し眠剤の服用なども行っている。夜中に寝付けないなど見られた際は、可能な限り付き添いし安心感をもって頂くと共に、寝付けない理由を探るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体が調剤薬局の為、利用者様に対しての薬剤指導や職員が薬に関する質問をいつでも出来る環境を整えている。また、薬状をファイルし服薬変更時などいつでも確認出来るようにしている。服薬援助においては一連の流れを設け、担当者はチェック表にて最終確認を行っている。状態変化については適宜記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様との関わりを通し趣味や趣向を把握出来ており、支援に活かしている。家事作業や得意とする事など、日常に役割を持って頂く工夫も行っており活気のある毎日を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話から、なるべくご本人の希望に添って外出出来る様に努めている。また、希望を話されない方は、選択肢を提示したりと工夫している。またご家族様にも協力していただき、馴染みの場所に外出・外泊出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方はご家族様に了承頂き所持されている。その他、全入居者様に入居時に依頼し、ホームで管理している金銭については毎月出納帳と領収書をご家族様へ送付している。外出時は預かり金を渡し、そこから支払い出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、いつでも自由に電話できる環境作りを行っている。使用が不安な方は都度職員が付き添い実施している。本人にきた手紙等は直接本人へ渡したり、職員と共に確認し、プライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や光には特に敏感であるため、都度利用者様に確認し調整している。居間や廊下には余暇活動で作成した装飾や季節の花等を飾り、季節感を楽しんで頂けるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の席の配置は特に決めておらず、一人ひとりが気の合う方と会話できるよう工夫している。また、好まれるテレビ番組なども把握出来ており、思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使っていた家具や寝具、衣類、家族の写真、配偶者の遺影等、様々なものを持参して頂き、在宅時となるべく近いものとなるよう工夫している。入居後も職員と共に表札や作品、写真や手紙などを飾る等、個性のある居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室はドアや居室の内装の色が別々になっており、混乱することなく居室に戻る事が出来る工夫をしている。その他表札を作ったり一人ひとりに合わせて様々行っている。必要に応じ居室に手摺りを増設したり、シールで電気の場所を貼るなども行っている。		